

平成29年度 学校評価（総括評価表）

重点課題	重点目標	評価指標	評価		学校関係者評価 (学校関係者の意見)	
			評価指標による達成度	自己評価		総合評価
<p>・子どもたちの個性や能力に応じた自発的な学びを促し、これからの社会を生きぬく力を身に付けさせる教育を推進する。</p>	<p><小学部> ・研修会や授業改善等を通して教員の専門性と授業力の向上を図り、児童一人一人の豊かに生きる力を育む。</p>	<p>・学部またはグループで、専門性と授業力の向上を目指した研修会を、月に1回以上実施する。</p> <p>・年1回、研究授業を実施する。</p> <p>・授業見学を一人1回実施し、授業改善をおこなう。</p> <p>・実践事例をまとめ、8月の特別支援教育学会で発表をする。</p>	<p>・学部全体研修会を年間7回、グループ毎の研修会やケース会議を10回以上実施した。</p> <p>・1学期に研究授業及び授業研究会を実施した。</p> <p>・全員が1回以上授業を公開し、相互に参観して意見やアドバイスを受け、授業改善を行うと共に、児童についての共通理解を深めることができた。</p> <p>・取組の詳細については各グループで、まとめについては学部全体で検討し、学会で発表した。発表内容については、分科会に参加したアンケート回答者の90%以上から、「満足」と回答があった。</p>	A	A	<p>・学校評議員会を年1回から2回に回数を増やしたことにより、昨年度の評価や反省を基に、今年度の計画と評価の機会をそれぞれに持つことができた。計画と評価を確実に行うことは大切であり、適切な判断であったと思う。</p> <p>・昨年度末に出された課題として、①「個別の教育支援計画に合理的配慮を記載することについては、次年度には書式を整えて記載する方向で取り組んでいきたい。」と、②「合理的配慮については、2年間で築かれた視点で来年度からも合理的配慮の視点に基づき人権教育を推進していく必要がある。」の2点が挙げられていたが、今年度の学校重点目標に反映されていない。今年度中に達成されたのか、達成されないまでも意識して実践されたのか、この総括評価表の中には表記されていないが、教育活動の連続性が重要であると思う。</p> <p>・「合理的配慮」の判断基準は、第3者の視点で日本の大多数の人が見て納得できるものと考えるとよい。</p> <p>・重点目標に対しての評価指標の設定とその達成度、活動計画の設定とその実施</p>
		<p>活動計画</p> <p>・児童一人一人の将来を見据えた生きる力を育むために必要となる課題を明らかにし、それに応じた研修会を学部、またはグループで計画・実施する。</p> <p>・研究授業や相互の授業見学を実施し、授業改善をおこなう。</p> <p>・授業力の向上を目指した実践をグループで検証する。それを学部全体の取組としてまとめ、特別支援教育学会で発表する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>・必要となる課題について学部でアンケートを実施し、その結果を基に計画的に研修会を実施した。中でも、ICT関連機器の製作やNMBP (New Movement Basic Program) の研修内容は、授業ですぐに活かすことができた。</p> <p>・研究授業を実施する学習グループで複数回の協議を重ね、準備の段階で授業改善が進んだ。また、研究授業後の授業研究会で意見やアドバイスを受けて、さらに授業改善をすることができた。授業見学では、全員が授業を公開して相互に授業を参観した。参観者はアドバイス票に意見や改善点を記入して授業者に提出した。授業者は、改善点をまとめ、次時からの授業に活かすことができた。</p> <p>・3つのグループでそれぞれの実践についての検証をした。その結果を基に学部全体で取組をまとめ、発表のリハーサルを実施し、改善点を修正して当日の発表に臨んだ。</p>			

<p><中・高等部></p> <p>・卒業後に向けて、人との関わりの中で社会性やコミュニケーション能力を高め、QOLの向上に努める。</p>	<p>評価指標</p> <p>・総合的な学習の時間に、生徒主体で中高等部合同のコミュニケーションタイムを年間5回以上実施する</p> <p>・総合的な学習の時間に、実態に応じてグループや個人による中高合同の発表会を年間3回以上実施する。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>・生徒が主体となって総合的な学習の時間におけるコミュニケーションタイムを年間5回実施することができた。</p> <p>・生徒それぞれの実態に応じて、進路(2回)、防災(1回)、学習(1回)に関する発表会を年間4回実施した。</p>	<p>自己評価</p> <p>A</p>	<p>・生徒が主体的に活動する場として、コミュニケーションタイムを設けることにより、自主・自律の精神や協働の精神を育む機会となっている。</p> <p>・学習発表会の場で、中・高等部の生徒が学習の成果を生徒や教員の前で伝えることにより、生徒相互の理解や普段授業に入っていない生徒の事を教員が知る機会にもなり、学部内での生徒理解に繋がっている。</p>	<p>状況、総合評価(所見)の適切さについて、客観的にみて整合性があるかという点について検証する必要がある。</p> <p>・評価指標に数値を入れることにとらわれているが、コンピテンシー評価を取り入れてみてはどうか。</p> <p>※「コンピテンシー」とは、特定の業務や役割において突出した成果を出し続ける行動特性のことで、コンピテンシーを分析することで、成果(アウトプット)に繋がる行動様式を策定でき、組織の生産性の向上に大きく寄与すると考えられる。</p> <p>・重点課題の一つに、「これからの社会を生きぬく力を身に付けさせる教育を推進する。」とあるが、高等部卒業後の支援はどうしているのか。</p> <p>・ICT機器の活用は、重度重複児への支援を考えるうえで重要であると思う。</p>
	<p>活動計画</p> <p>・生徒全員が参加し、生徒主体で実施計画を立て、学期に2回を目標にコミュニケーションタイムを実施する。</p> <p>・進路学習、防災学習、学習参観日等の機会を活用して発表に繋げるとともに、各生徒についての共通理解を深める。</p> <p>・コミュニケーションタイムや発表会の様子を随時HPにアップして保護者や関係機関に発信し、情報の共有を図る。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>・各グループの中で、中・高等部の生徒が主体となって計画・運営を担い、年間5回コミュニケーションタイムを実施することができた。</p> <p>・各学習発表会を通して、生徒一人一人が自分の経験や学習についてまとめたことを伝えることで、学部内で各生徒について理解を深めることができた。</p> <p>・HPでの情報発信を通して、学校生活における生徒のコミュニケーション活動の様子を共有することができた。</p>			
<p><教務課></p> <p>・ケース会のあり方について検討・改善等を行うことによって、効率的に個々の学習課題や支援の方法等を共通理解し、より効果的な学習指導や支援ができるようにする。</p>	<p>評価指標</p> <p>・検討・改善等を行ったケース会を実施し、アンケートで以前のケース会と比較して、効率的または効果的になったかどうかを問い、「そう思う」、「どちらか」というと「そう思う」という回答が70%以上になる。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>・各学部のケース会終了後、アンケートを実施し、以前のケース会と比較して、効率的または効果的になったかどうかを問い、「そう思う」、「どちらか」というと「そう思う」という回答が76%となり目標を達成することができた。</p>	<p>自己評価</p> <p>B</p>	<p>・効率的なケース会のあり方について、検討・改善を行うことで、課内における業務改善を図った。</p> <p>・教員の意見を集約してケース会の効率化を図ることで、児童生徒の学習課題や学習指導に対しても内容を精選する機会となった。</p>	<p>次年度への課題と今後の改善方策</p> <p>・昨年度の課題であった「個別の教育支援計画に合理的配慮を記載する」ことについては、今年度の総括評価表に直接記載はしなかったが、特別支援教育課やワーキンググループにおいて様式の見直しを検討した</p>
	<p>活動計画</p> <p>・教務課会で各学部のケース会の現状を把握する。そして、各学部においてより効率的、効果的なケース会のあり方を検討し、学部会で意見を聞きながら決定する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>・ケース会のあり方について、各学部に意見を聞きつつ検討を行い、まとめたものを文書で配付し、10月の段階で周知した。以後行うケース会は、周知した内容で行い、以前のやり方と比較して、アンケートで評価を受けるようにした。</p> <p>・学部を超えて3グループに分かれて研究・実践することにより、</p>			
<p><研究課></p> <p>・教員の資質や専門性の向上を図り、日々の実践を充実さ</p>					

せる。	<p align="center">評価指標</p> <p>・自立活動における実践力の向上を図るため、グループ研究を行い年3回の事例報告会を実施する。</p>	<p align="center">評価指標による達成度</p> <p>・1学期に1回、2学期に2回合わせて年3回の事例報告会を実施することができた。</p>	自己評価 A	<p>小学部から高等部までの時間軸という視点で、全教員が事例を共有することができた。</p> <p>・研究の成果を研究実践録としてまとめて、関係機関に配付することで、本校の取組を情報発信することができた。</p>	<p>結果、実態から考えられる「支援の手立て」の欄に明記することになった。</p> <p>次年度は、新様式となった「個別の教育支援計画」を作成する場合に、まず教員が共通理解を図るために校内研修を行い、「合理的配慮」の視点から支援の手立てを考えるようにする。</p> <p>・「合理的配慮の視点に基づき人権教育を推進していく」ことについては、校内研修や毎月1日の人権の日に教職員に対して啓発することによって、合理的配慮に基づいた人権教育を推進していきたい。</p> <p>・重点目標に対する評価指標や活動計画を設定する場合、より客観性を持たせるために、第1回の学校評議員会で意見を頂き、変更の必要性があれば年度途中でも加筆修正を行う。</p>
	<p align="center">活動計画</p> <p>・学部を超えたグループを作り、テーマに基づいて研究・実践を行う。さらに事例報告の話し合いをする機会を持つ。</p>	<p align="center">活動計画の実施状況</p> <p>・「自立活動」、「教材教具」、「進路」の3グループに分かれ、それぞれ「生きる力を育む自立活動」、「自ら学ぶ力を伸ばす教材教具」、「卒業後につながる支援及び連携」というテーマに基づき、グループ会を実施した。さらに様々な事例報告を研究実践録にまとめた。</p>			
<p align="center"><特別活動課></p> <p>・児童生徒会役員の活動を活性化させることで、全ての児童生徒の自主的活動の推進につなげる。</p>	<p align="center">評価指標</p> <p>・本年度の様々な学校行事に関連して、児童生徒会役員が計画、準備、運営のために集まる回数を12回以上にし、積極的に行事の運営にかかわる。</p>	<p align="center">評価指標による達成度</p> <p>・運動会や学校祭など様々な行事に際し、本年度12回の役員会を実施した。</p>	自己評価 A	<p>・児童生徒会役員としての意識が徐々に高まり、各行事において意欲的に活動する姿が多く見られるようになってきた。</p> <p>・そのことが他の児童生徒にも少しずつ広がり、主体的な活動が増えつつあると思われる。</p>	
	<p align="center">活動計画</p> <p>・特に、運動会や学校祭などの各行事の事前準備を見通しを持ち計画的に進めることで、効率的に充実した内容で児童生徒会役員会が開催できるように努める。</p>	<p align="center">活動計画の実施状況</p> <p>・運動会や学校祭、その他様々な学校行事に際し、事前に数回の役員会を実施した。その中で、各行事ごとの役割分担を決定する話し合いに積極的に参加し、相談することができた。また、意欲的にリハーサルに取り組み、本番でも堂々とそれぞれの役割を遂行し、行事の成功に貢献した。</p>			
<p align="center"><人権教育課></p> <p>・体験学習などを基にして、児童生徒の自らの学びにより、人権意識の向上を図る。</p>	<p align="center">評価指標</p> <p>・児童生徒の実態に応じて、人権に関する自分の意見をまとめて発表することができる。</p> <p>・児童生徒、教員対象のアンケートにおいて「自分で考えることができた」「人権意識が向上した」「有意義な活動であった」と、70%以上の回答を得る。</p>	<p align="center">評価指標による達成度</p> <p>・ポスターの制作活動を通して、友だち同士で仲良くすることや協力することの大切さを表現することができた。</p> <p>・「学習活動を通して、人権意識向上を図ることができたか」の質問に対して、「そう思う」と「どちらかというと思う」の回答を97%の教員から得ることができた。</p>	自己評価 A	<p>・人権ポスターの制作や交流校との交流学习等を通じて、人権意識の向上を図ることができているとほとんどの教員が感じている。</p> <p>・「中高生の人権交流集会」に高等部の生徒が複数回参加する等、地域の高校生と交流する機会を積極的に持つことができた。今後とも、機会がある毎に可能な限り地域社会での活動や交流の場に参加するように支援してい</p>	
	<p align="center">活動計画</p> <p>・人権に関する研修会や校外学習などの体験活動を実施し、その活動に関して事前に学習したり、体験を通して児童生徒自身が考えをまとめたりして、みんなの前で発表する機会を設ける。</p>	<p align="center">活動計画の実施状況</p> <p>・生徒や保護者、教員を対象とした研修会を年間2回実施した。また、県内西部ブロックで行われた「中高生の人権交流集会」に、のべ10名の準ずる教育課程で学習する生徒が参加し、体験を通しての感想をまとめることができた。教員対象のアンケート</p>			

	・学習後、教員や児童生徒にアンケートを実施する。	では、100%の教員から「良い研修だった」との回答を得ることができた。	きたい。
<情報視聴覚課> ・個性や能力に応じた自発的な学びを豊かにするため、児童生徒のニーズに即したICT教材や支援機器等を活用する。	評価指標	評価指標による達成度	自己評価 B
	・個別の指導計画の「手だて・留意点」の欄に、個性や能力に応じた自発的な学びを豊かにするためのICT教材や支援機器等に関する記載が6割を超えるようになる。	・高等部では約6割の記載があり目標を達成することができたが、小学部と中学部では約4割の記載にとどまり、目標を下回るようになった。	
	活動計画	活動計画の実施状況	・ICT教材や支援機器の積極的な利用を目指して、個別の指導計画に記載することを評価指標としたため、目標を達成することができなかった。しかしながら、授業を展開する過程で、実際には児童生徒の目標を達成するために必要な支援について検討し、多くのICT教材や支援機器等を活用することができた。
・学部のケース会において、個別の指導計画の「手だて・留意点」のICT教材や支援機器等に関する記載に基づいた情報交換等を行う。	・ケース会において、記載されていICT教材や支援機器等についての情報交換を行うことができた。また、授業を展開する過程で、児童生徒の実態に応じた支援機器等に関する情報交換を行い、活用することができた。		